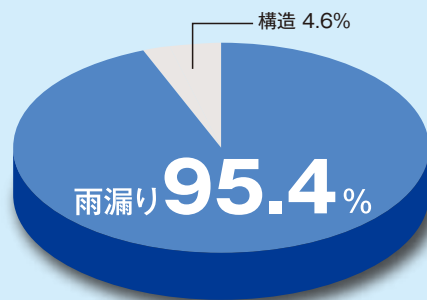


JIO新築住宅かし保険「追加外装下地検査」のご案内

実は、保険事故の**95.4%**が
「**雨漏り**」でした!



新築住宅の保険事故の分類
(2008年12月~2022年3月末までの累計)

事故が発生すると…、いろいろな問題が起こります。

お客様に多大な
ご迷惑が…。

信用の失墜
につながる…。

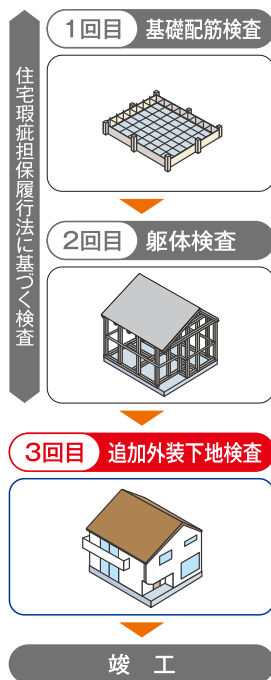


対応にかかる時間と費用
を考えると…。

JIOの
「**追加外装下地検査**」が
雨漏りの不安を解消します

JIOの「追加外装下地検査」とは？

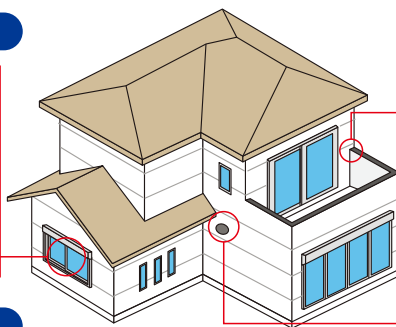
完成すると見えなくなる防水部分の検査です。



主な検査項目



窓等の開口部の防水措置



笠木の上端部や外壁との取合い部



外壁貫通部の防水措置

対象住宅

「JIO 新築住宅かし保険」にお申込みいただく階数3以下の住宅

検査のタイミング

「防水下地張り工事の完了時」となります。
木造住宅の場合は、外壁の下地等(防水紙等)の工事が完了した段階で現場検査を行います。

検査の方法

検査は目視または計測で行います。この検査は雨漏りに関する事故を減らす取組みとして行いますが、防水が必要な部位すべてを確認するものではありません。

累計検査数46万件*のJIOにおまかせください!

*2022年3月末までの「追加外装下地検査」実施検査数

裏面に検査指摘事例等をご紹介します。

実際に「追加外装下地検査」を受けた物件では

12%*に『指摘あり』

*2021年4月～2022年3月末までの実施検査数約4.9万件に対して

検査してよかった!

検査指摘事例と施工のポイント

指摘事例① パイプ類貫通部まわり

貫通部まわりの防水テープ等が施工されていません。



パイプ類と防水紙を防水テープ等で密着させる必要があります。

ポイント



- パイプまわりは、防水テープ等の圧着が可能な下地（パイプ受け、下地面材等）を設けます。
- 「圧着具」を用い、丁寧にしっかりと圧着します。

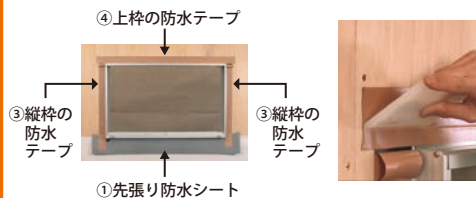
指摘事例② 開口部(サッシまわり等)

サッシまわりの防水テープが施工されていません。



サッシまわりは、防水テープを用い、サッシフィンと防水紙の連続性を確保する必要があります。サッシ窓台には先張り防水シートの設置を推奨します。

ポイント



- ①先張り防水シート→②サッシ枠取付け→③縦枠の防水テープ→④上枠の防水テープの順に施工します。
- 「圧着具」を用い、丁寧にしっかりと圧着します。

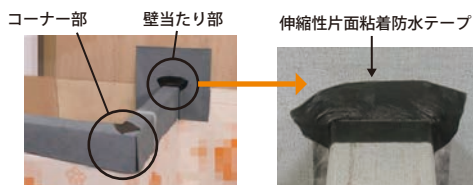
指摘事例③ 笠木と外壁の取合い部

取合い部の防水措置がされていません。



取合い部は、伸張性片面粘着防水テープ等を用い、三面交点のピンホールをふさぐように施工する必要があります。

ポイント



- 壁当たり部・コーナー部共に、伸張性片面粘着防水テープでピンホールを確実にふさぎます。
- 「圧着具」を用い、丁寧にしっかりと圧着します。

雨漏りしやすい部分や施工のポイントとなる部分を検査することが、雨漏り防止につながります。

検査後の報告

検査結果（指摘箇所がある場合はその内容を含む）を事業者様へ報告いたします。「報告書」と「検査写真」はJIO Web システムからご確認くださいませ。
※結果に応じて是正・施工いただいた部分の写真の提出をお願いします。

ご注意

この検査をご希望の場合は保険申込時に「追加外装下地検査実施住宅」のコースを選択してください。保険申込後の追加申込・キャンセルはできません。